

# 縄文遺跡 磯山城遺跡

**いそやまじょ**  
磯山城は、北近江の戦国大名浅井氏の出城として築かれた山城ですが、発掘調査では縄文時代の早期から晩期までの各時期の土器が出土しており、滋賀県を代表する縄文遺跡として知られています。とくに早期の押型文、条痕文土器の一群は県下でも最古級の土器です。高山寺式土器とよばれる早期の土器は、底が尖っていて一見すると砲弾のような形です。土器の外面には全面に米粒のような橢円形の文様が付けられています。

縄文時代の各時期を通じて、東海・北陸・中部山岳地方の特徴をもつ土器や、石器の石材には大阪府二上山産のサヌカイト、島根県隱岐島産の黒曜石などが出土していて、縄文時代の交易圏の広さがわかりました。また、早期終りごろの埋葬施設から検出された2体の人骨のうち1体は、仰向きの状態から腰の部分より足をまっすぐに頭部まで曲げるという、全国的に類例がない非常に珍しい屈葬の状態で見つかりました。

調査では、明確な集落の跡を確認することができなかったことから、この遺跡は、定住集落というよりは、豊かな自然の幸を求めて営まれた、狩猟のためのベースキャンプ的な遺跡であると考えられます。いずれにしても、里山を背後に、湖と内湖に囲まれた米原の地は縄文人にとって生活しやすい土地でした。

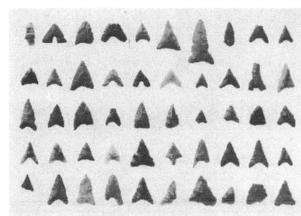


屈葬人骨（縄文時代）

## 縄文人の楽園・まいばら

入江内湖の縄文人は、丸木舟で内湖から琵琶湖に漕ぎだし、内湖背後の里山に入り、ときには天野川をさかのぼって伊吹・靈仙の深山に分け入る。琵琶湖、内湖、川、里山、深山が直結する米原の地は、県内でもいち早く開かれた場所で、磯山城遺跡(磯)、入江内湖遺跡(磯ほか)、法勝寺遺跡(高溝)など湖岸の遺跡では全時期を通じて土器や石器・木器などが出土しています。市内の縄文時代は、早期の中葉頃から本格的に始まります。姉川上流山間部でもわずかにこの時期の土器が見つかっていますが、早期から前期、中期前半では、筑摩佃遺跡(朝妻筑摩)、高溝遺跡(高溝)など琵琶湖岸が生活の拠点です。中期中頃以降、山麓や山間部、内陸部でも遺跡数が急増し、瀬戸内・東海・北陸・中部山岳地帯や関東など各地の土器が持ち込まれ、石劍や土偶といった精神的な遺物が出土するなど、後期前半までもっとも成熟した時期を迎えます。

晩期には、山麓で杉沢遺跡(杉沢)が栄えるものの、高溝遺跡、顔戸遺跡(顔戸)、世継遺跡(世継)など、湖岸の低湿地の自然堤防上に活動の場を移し稻作社会が到来します。



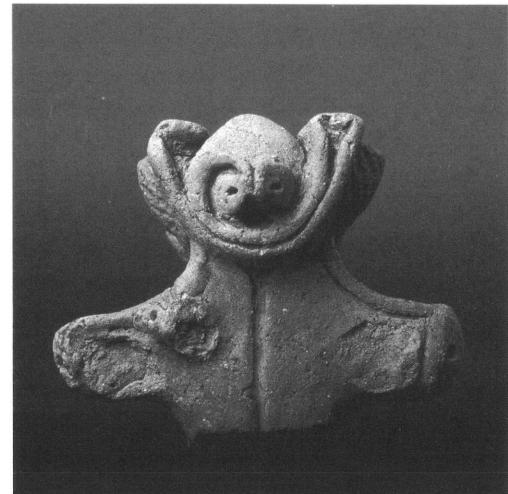
石鍼や石匙に用いられた  
石材では、サヌカイトは大  
阪府二上山および岐阜県下  
呂、黒曜石は島根県隱岐島  
久見産のものです。筑摩佃  
遺跡では、二上山・香川県  
金山・北陸のサヌカイトや、  
長野県霧ヶ峰・東京都小笠  
原諸島神津島産の黒曜石が  
含まれていました。



縄文土器（早期）



高山寺式土器（縄文早期）



河童型土偶（筑摩佃遺跡／市指定）



磯山城遺跡位置図（明治26年測量図）



### 磯山城遺跡 縄文遺跡

■ 所在地 滋賀県米原市磯

■ アクセス JR東海道線米原駅下車。徒歩約45分。  
米原市役所米原庁舎にレンタサイクル有り。

### 米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106

平成21年度 埋蔵文化財活用事業